

Business Woman

interview

Guest **木曾 清美さん**

クリエイティブディレクター

Profile 千葉県出身。高校在学時から美容室でアルバイトをスタート。専門学校を卒業後、渋谷にある美容室に勤務。2年後、知人の紹介でニューヨークへ。サロンワークをはじめ、ファッション雑誌やショーなど幅広く活躍。2年後に帰国し、モッズヘアに入店。4年間勤めた後、シンガポールへ。



①コンテストにはカラーリストの名前で出場するが、カットを担当。みんなで何ヶ月もそれに集中してトレーニングを積む。「普段しない髪型を提案することで、自分の刺激にもなる」そう、アーティストとして、このような機会を設けている。写真は2008年、ロレアルカラートロフィー特別賞の作品。
②シンガポール時代には、超が付くほど忙しい合間を縫ってセミナーやショーに出席。写真は2003年、フィリピンでの1コマ。
③どんな立場であろうとも基礎をやる所からせず、日々トレーニングを積んできたそのスキルの高さは、期待を裏切ることはない。お客様のほとんどがリピーターというもうなげず。



一足早くデビュー

「美容師を志したきっかけは？」

美容師になる気は全くなかったんですが、高校生の頃に美容師さんに誘われて、そこでバイトすることにやってみると大変でしたが、すっかりハマってしまい、資格取得のために美容学校に進んで美容師になりました。卒業後に働いた渋谷の美容室では、夜中の1時から1時まで毎日練習。苦にならなかったです。だから異例の1年でデビューできたんだと思います。

「ニューヨークへ行ったのはなぜ？」

もう少し大きな美容室で仕事がしたいと思って1年21歳の頃、当時の知り合いにニューヨークに行かないと誘われまして。行ったものの、言葉も分からないし、何も食べられないし、1ヶ月で5キロ痩せてしまいました。

「でも諦めないで残ったのはなぜ？」

ニューヨークはチャンスが無い込んでくるんです。知り合ったカメラマンと有名雑誌の撮影をコラボレーションしたり。コネクション作りで毎晩のように出歩いていましたね。

一念発起して上海へ

「今度は上海へ。」

がんばっていたの契約書にサインをしてしまったので、シンガポールで独立することができなかったんです。そんな時に、経理や法律を任せられるシンガポールのパートナーに「上海でやらない？」と誘われました。2005年に上海へ来ました。

「上海はいかがでしたか？」

ゼロからのスタートは私の人生で初めて。シンガポールは機械のように働かないとお金が回らないけど、上海ではお客様にサービスとして還元できる余裕があります。自分が目指す美容室ができて自信ができましたね。

「ゼロからのスタートは大変でしたよね？」

スタッフを探して、指導して。1年目は帰りがたくて仕方なかった。シンガポールに帰る気マンマンだったので(笑)。2年目にシンガポールに会社を立ち上げたんですけど、パブルで家賃が倍になり、それで諦めました。必然的に上海に残るようになり、私が移動するたびに、そのつど自分のお客さんが離れていく。やるなら長いスパンでやらなれないかと思いついて、軌道に乗り始めた上海に腰を落ち着かせてやるうと決意しました。

「やりがいを感じる時は？」

もちろん、お客様が喜んでくれるときです。この仕事を始めた時は、自分がキレイにならなかった。でも今は人をキレイにすることにやりがい

「でも日本に戻られましたよね？」

コレクションなども見たのですが、私の求めるスタイルではなかった。ニューヨークよりもヨーロッパのスタイルが私には合っているから。それに人種の壁を強く感じたのもありました。どんなに頑張ってもアジア人の女の子はチャンスがもらえないですね。

再スタートは日本から

「日本では一からスタートしたそうですね。」

帰国したばかりの私はお客さんを持っていかなかったの。ちょっと高くなっていった鼻をパンッと折ってアメリカンサイズしたテクニックから勉強できたのはとても良かったですよ。

「久しぶりの日本の美容業界は？」

日本はひとつのデザインが流行するとみんなそれをやるスタイル。当時はカリスマ美容師がブーム。ちょっと私は肌が合わなくて、社長にバリ行きの話をしました。しかし、フランス語が聞き取れないから、アシスタントからスタートと言われ、悩んでいた時に、シンガポール行きの話が舞い込んできました。

「シンガポールに興味は？」

全くなかったです(笑)。行ってみると、街もきれいで英語も通じる。当時は日本語も話せなくて、1日20人カットして、機械のように働いていました。でもある日そんな生活に疑問を感じまして。経営について考え始めた時期でもあるんです。

「経営者として変わったことは？」

以前は自分の技術を伸ばしたい一心でしたが、スタッフたちと向き合って教えることに情熱を注ぐようになりました。ずっと朝も晩も基本を欠かさずトレーニングしてきたし、海外に行くと色んなものをみたりして私には経験と自信があります。完璧主義なんですけどね。

「これからの目標は？」

直々に指導している中国人スタッフをスタイリストにすること。将来的には学校を開校することにもなるとは思いません。今テレビに出演しているのは、一緒に仕事をしているメイクさんに「有名になりたい」と言われているから。将来的に学校を開いたときに役立つから。少しずつ他の分野、中国ブティックなどの仕事や他地域の仕事を増やして行きたい。私はお店の名前を背負っています。ウスタージに進もうと思っています。